

「恒 心」

千葉の県人 鎌田 留吉

先日、或る株式の会合で妙齢の婦人と居合わせた。その人は（仮にAさんとする）知り合って早々「ニプロ（8086）ってどう思います？リプロセル（4978）が上場のとき保有株が多いというので高いところで買ってしまって、今三割も下がっているのですが？」と尋ねてきた。わたしは「①基本的に上場を材料にしたお祭りのようなものだから、上場が疾うの昔に終わった今は新しい材料がない限り高値の奪回は難しい。②保有株と上場の際の時価によりニプロの価値がどれだけ上昇したのか考えよ。」と話した。しかし、その直後にAさんの隣に私の知人が来たときも、すぐにそのことを尋ねているのだった。

その後、いろいろと聞いてみると、既婚の若夫人と思っていたAさんは、実はまだ独身でしかも無職だというのであった。私は即座に、「デイトレーダーなどということは、未婚でしかも無職のあなたがやるべきではない。人生にはもっと素晴らしいことがたくさんある。まずはまっとうな仕事について結婚をなさい。」と老翁心に満ちたことをいった。

余計なお世話だと一般的には言うであろう。しかし、私は日頃から思っている確信があったので、その行為を申し訳なかったとは思っていない。「恒産なきものは恒心なし」という言葉がある。広辞苑によると「一定の生業や収入のない人は常に変わらぬ道徳心をもつことができない。生活が安定していないと精神も安定しない。」とある。

私はこのAさんの例は株式投資に際しての重要な示唆を与えていると思う。株式投資をするに際しての最も重要なことはその人の心理状態であると考えているからだ。その心理に焦燥感の萌芽が少しでもあれば、その人は投資を見合わせるべきである。未婚のうら若い女性が職もなく日々当てのない画面を見つめ年取っていくという営みは、心の中に焦燥感を醸成しているようなものだ。それに彼女は既に焦燥感に侵されている。常に言うごとく「踏み出し大切なり」なのだ。彼女はよく解らぬままニプロを購入してしまい、含み損を抱えている。会う人ごとに聞くのは「どうしたらいいでしょう？」「どうしたらいいでしょう？」というそれは嘆きだ。「思い入れ違いの節は早速仕舞」うべきなのだ。

30%のやられというのも極めて象徴的だ。或る株が50%値下がりしてしまったとき、その株は何%上がらなければいけないか？答えは100%だ。その求め方は、10%下がったとすると、残っているのは90%つまり10分の9だ。これを1に戻すのは逆数つまり9分の10を掛ければよい。つまり11.2%の上昇。15%の値下がりときは17.7%の上昇が必要。20%の値下がりときは25%の上昇が必要。30%の値下がりときは、42.9%の上昇が必要。35%の値下がり時は53.9%の値上がりが必要。40%の値下がり時は、66.7%の値上がりが必要。45%の値下がり時は81.9%そして50%で100%となる。

10%の値上がりというのはよくある。20%も比較的体験する。30%はそう多くはない。そして、40%以上というのはあまり体験しないことだろう。ICASで損切りの基準を10%にしているのもこうした背景があるからだ。Aさんは見切り損ねた。その直前には判断停止があったはずだ。「思い入れ違いの節は早速仕舞い四五十日休むべし」 2013.10.14 記